

平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	開田高原えごま生産プロジェクト
事業主体 (連絡先)	開田高原えごま生産プロジェクトチーム 0264-44-2213
事業区分	農業振興、今日拡大に関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	2,837,225 円 (うち支援金: 1,677,000 円)

事業内容

- 1 全面マルチ作業の実施検証
雑草の除去作業が労力削減コスト軽減の要。雑草発生要因の減少により課題の克服を図る
- 2 水分計の購入
品質管理に無くてはならず、保管、加工等良品商品の販売に効果が期待できる
- 3 乾燥ハウス、棚の敷設
乾燥施設の整備、作業場所の確保等は増産体制の確立が欠かせない。



【唐箕かけ作

【目標・ねらい】

- ① 労力削減、増産対策
- ② 品質管理の向上
- ③ 作業効率及び管理の向上、

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- 1 全マルチ作業の労力削減、コスト削減が実証できた。今後は、栽培方法の確立と更なるコスト等の削減に取り組む。
- 2 品質の確保に大いに役立った。電気代等のコスト削減にもつながり安心安全な商品開発につながった。
- 3 専用の場所が確保できたことで移動が少なく作業効率の向上が図れた。又、雨天等の天候に関わらず作業できたので計画的にできた。

※自己評価 【C】

【理由】

メイン事業の講演会が出来なかったことは、当会の目標達成が先送りになってしまったことと言える。ただ、会員の普及に対する意識向上を図れたことは良かった。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今年は、悪天候もあり播種時期によっては収量が落ちた。また、圃場格差も有まだまだ栽培技術の課題点が残されている。獣害対策の一環として主要作物となるよう啓蒙活動は欠かせないと感じる。更に、生産者各自の技能習得或いはオペレーター等の確保も高齢化の中では必要ではないかと感じた。

えごまオイル等の関連商品の需要が落ちてきている。今後は、需要拡大につながる活動が必要になってくるのではないかと考える。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

(別記様式第12号) (第3の8関係)